

⑩日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開
昭53-105089

⑫Int. Cl.⁴
A 61 F 9/00

識別記号

⑬日本分類
94 B 0

庁内整理番号
7001-33

⑭公開 昭和53年(1978)9月12日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑮明視装置

⑯特 願 昭52-19022
⑰出 願 昭52(1977)2月23日

⑱発明者 山川清

柏江市岩戸南3-2-7

⑲出願人 山川清

柏江市岩戸南3-2-7

明細書

1. 発明の名稱 明視装置

2. 特許請求の範囲

形状や色や明暗をそれぞれに映すした電位差に変えて視野や视力を供与出来る明視装置。

3. 発明の詳細を説明

眼球内の網膜の周辺部に在る約1億個の明暗に感応する視細胞カン状体や中央部に在る約300個の形状や色彩に感応する視細胞スイ状体の化学反応によつて約100万本の神経状の視神經の束に電位を発生させてこれを眼球外の視神経を通じて大脳内の視覚神経上に映像させて見る事が出来るのである。

本発明は眼球を用いる事なくしてカメラに映じた外界の形状や色彩や明暗等を撮像管内の部品によって次々に映すした電位にかえそれを眼球外の左右の視神経に次々必要に応じて金属針を挿入して送りさせて信号を送るか又は脳波テストの場合のように大脳内の視覚神経上に感應させて結

像させるようとした明視装置に係るものである。

上記のように本発明は全世界の百人に健全なる視野や视力を享樂させる事が出来るので人生の視覚に甚大なる貢献をするものであり正に紀元を開する大発明といつことが出来る。これを一実施例について説明すれば

(1) カメラ (2) 撮像管 (3) および (3') は次々眼球外の視神経 (4) および (4') は次々左右の視神経に挿入した金属針である。

尚本装置に無線回路を用いる事により接続を極少小型化する事が出来るので恰もメガホン無線行使用に更便となる。

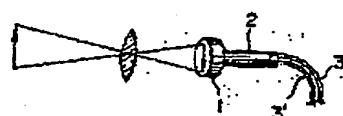
4. 図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例構成を示す。

①カメラ ②撮像管 ③および ③' は次々眼球外の視神経 ④および ④' は次々金属針である。

特許出願人 山川清

BEST AVAILABLE COPY



特許昭33-105039(2)

